

地質ニュース

昭和 59 年 11 月

第 363 号

1984

| | | |
|---------------------------------------|---|--------------|
| 特別セミナー 実験地学と地殻の開発・利用 —地質調査所の役割— | 佐藤 壮 郎 | 6 |
| サブダクション・ゾーンとしての日本列島 | 上 田 誠 也 | 7 |
| 海外諸国における地層処分に関する研究開発 | 柏 木 高 明 | 16 |
| 電力エネルギーに関する地下の利用 | 林 正 夫 | 24 |
| 深部地下資源に関する未来技術 | 武 内 寿久弥 | 28 |
| 実験岩石学とその応用 | 八 木 健 三 | 33 |
| アンダーグラウンド—隠れたフロンティア | 小 出 仁 | 38 |
| 実験岩石学と鉱物合成法 | 金 沢 康 夫 西 沢 修 | 56 |
| 名古屋北部 NAGOYA-HOKUBU | 坂 本 亨 桑 原 徹 糸 川 二秀 高 田 康 脇 田 浩 尾 上 亨 | 62 |
| 口 絵 南部鉱石標本 | 谷 正巳 阿部智彦 | 谷口政碩 正井義郎 |

編集 地質調査所

発行 株式会社 実業公報社

表紙の写真

12月号予定目次

折りたたみ褶曲を示す虎マン

大谷山鉱山は北上山地の代表的な層状マンガン鉱床として著名である。岩手県下閉伊郡山田町豊間根に位置し、古生代下部二畳系のチャート卓越層中に胚胎している。層厚は1~2mであるが、顕著な折りたたみ褶曲の発達が特徴となっており、肥大部では10mを越している。鉱石はブラウン鉱 ($Mn^{2+}Mn^{3+}SiO_3$) とチャートの互層からなる縞状鉱 (虎マンと呼ばれている。色彩が虎の縞模様似ているため、この名がある) を主体としているが、菱マンガン鉱・バラ輝石・テフロ石等も局部的に濃集し、また、アレガニー石・南部石・バニスター石・ガノヒル石等も少量ながら認められる。

写真は「南部鉱石標本」中の1試料である。大谷山鉱山ネコイ鉱床第3黎明坑の肥大部から採取したもので虎マンの微褶曲が見事である(文:南部松夫写真;正井義郎)

特集: 最近の地変

最近の地震活動と地震予知の体制

1984年長野県西部地震の緊急調査報告

地殻変動観測のためのドライティルト法

近畿中部の活断層の概要と誉田山古墳

(応神天皇陵)を切る活断層について

会話型データ処理 その15

GEOCAPS の岩石学・鉱物学への応用と展望